

「麓にて」

§ 087 マコ 9 : 14~29、マタ 17 : 14~20、ルカ 9 : 37~43

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①ペテロの信仰告白
- ②イエスによる十字架と復活の預言
- ③イエスの変貌
- ④山頂から下る途中で、終末論の教えがあった。
- ⑤麓の現実と直面する。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

「弟子たちが癒せなかった悪霊につかれた少年」 (§ 87)

マコ 9 : 14~29、マタ 17 : 14~20、ルカ 9 : 37~43

(3) 山頂と麓の対比

- ①理想と現実のギャップ
- ②将来と現在のギャップ

2. アウトライン

- (1) 現実の問題
- (2) 父親との対話
- (3) 悪霊の追い出し
- (4) 弟子たちの質問

3. 結論 :

- (1) 父親の信仰
- (2) 死んだようになった子ども
- (3) 弟子たちの無力

麓での問題に対処する方法について学ぶ。

I. 現実の問題

1. 14~16 節

「さて、彼らが、弟子たちのところに帰って来て、見ると、その回りに大ぜいの人の群れがおり、また、律法学者たちが弟子たちと論じ合っていた。そしてすぐ、群衆はみな、イエスを見ると驚き、走り寄って来て、あいさつをした。イエスは彼らに、『あなたがたは弟子たちと何を議論しているのですか』と聞かれた」

(1) 麓には9人の弟子たちが残されていた。

①イエスがいない間、彼らはイエスの代理人(使徒)として奉仕をする。

②ところが、彼らは具体的問題に対処できないで、大騒ぎになっていた。

③律法学者たちが、弟子たちと論じ合っていた。

*論争のテーマは書かれていない。

④野次馬が取り巻いていた。

(2) イエスが麓に立たれた。

①群衆は、イエスを見るなりすぐに走り寄って来た。

*律法学者よりも、イエスをひいきしていた。

②群衆が驚いた理由

*イエスの顔に輝きが残されていたからか。

*予期せぬ出現、タイムリーな出現だったからか。

(3) イエスは、群衆に質問された。

①私の弟子たちと、何を議論しているのか。

II. 父親との対話

1. 17~18節

「すると群衆のひとりが、イエスに答えて言った。『先生。口をきけなくする霊につかれた私の息子を、先生のところに連れて来ました。その霊が息子にとりつくると、所かまわず彼を押し倒します。そして彼はあわを吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせます。それでお弟子たちに、霊を追い出すよう願ったのですが、できませんでした』」

(1) 回答は、群衆のひとりから返ってきた。

①彼には、口をきけなくする霊につかれた息子がいた。

②その息子をイエスのもとに連れて来た。

③霊は、息子を非常に苦しめていた。

*この状態は、メシア的奇跡のひとつである。

④弟子たちに助けを求めたが、弟子たちにはそれができなかった。

*イエスの弟子という名に傷が付く状態である。

*その結果、律法学者による追及が始まった。

2. 19 節

「イエスは答えて言われた。『ああ、不信仰な世だ。いつまであなたがたといっしょにいななければならないのでしょうか。いつまであなたがたにがまんしていなければならないのでしょうか。その子をわたしのところに連れて来なさい』」

(1) イエスの嘆き

- ①群衆と弟子たちに向けられたもの
- ②特に、弟子たちの霊的鈍感さを嘆かれた。

(2) 訳語の比較

「ああ、不信仰な世だ」(新改訳)

「なんと信仰のない時代なのか」(新共同訳)

「ああ、なんとという不信仰な時代であろう」(口語訳)

- *「不信仰な世代」という意味
- *不信仰こそが、霊的失敗の原因である。

(3) 「その子をわたしのところに連れて来なさい」

- ①この時点で、イエスは群衆からは離れている。
- ②イエスは、弟子たちの失敗を修復しようとしている。

3. 20～22 節

「そこで、人々はイエスのところにその子を連れて来た。その子がイエスを見ると、霊はすぐに彼をひきつけさせたので、彼は地面に倒れ、あわを吹きながら、ころげ回った。イエスはその子の父親に尋ねられた。『この子がこんなになってから、どのくらいになりますか。』父親は言った。『幼い時からです。この霊は、彼を滅ぼそうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。ただ、もし、おできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください』」

(1) その子の状態

- ①イエスを見ると、中にいる霊が激しく暴れた。
 - *悪霊は、自分の終わりの時が近いことを認識した。
 - *てんかんのようであるが、これは病気ではない。
- ②その状態は、幼い時から続いている。
- ③この霊は、この子を滅ぼそうとしている。
 - *悪霊の目的は、私たちを滅ぼすことにある。

(2) 父の嘆き

「ただ、もし、おできになるものなら、私たちがあわれんで、お助けください」

- ①弟子たちの無力を目撃したので、イエスに対する信仰がなくなっている。
- ②半分は疑い、半分は絶望している。

3. 23～24 節

「するとイエスは言われた。『できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。』するとすぐに、その子の父は叫んで言った。『信じます。不信仰な私をお助けください』」

(1) イエスは、その父親の不信仰を指摘された。

「できるものなら、と言うのか」

- ①イエスにそのような力があるかどうかは、問題ではない。
- ②父親に信仰があるかどうか問題である。
- ③イエスは、できる限り個人的状況の中で癒しを行おうとしている。
- ④受け手に信仰があることが、条件である。

(2) イエスは、信仰の力を指摘された。

「信じる者には、どんなことでもできるのです」

- ①信仰は、神の力に制限を設けない。
- ②信仰は、結果を神に委ねる。

(3) 父親はすぐに信仰を告白した。

「信じます。不信仰な私をお助けください」

- ①信じるためには、神の助けが必要である。

III. 悪霊の追い出し

1. 25 節

「イエスは、群衆が駆けつけるのをご覧になると、汚れた霊をしかって言われた。『口をきけなくし、耳を聞こえなくする霊。わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度とこの子に入るな』」

(1) イエスは、群衆から離れたところにおられた。

- ①群衆が駆けつけてきた。

(2) 悪霊の追い出し

①「口をきけなくし、耳を聞こえなくする霊」という呼びかけ。

②2つの命令

*「この子から出て行け」

*「二度とこの子に入るな」

2. 26～27 節

「するとその霊は、叫び声をあげ、その子を激しくひきつけさせて、出て行った。するとその子が死人のようになったので、多くの人々は、『この子は死んでしまった』と言った。しかし、イエスは、彼の手を取って起こされた。するとその子は立ち上がった」

(1) 悪霊が出て行くと、その子は死人のようになった。

①多くの人々は、そう考えた。

(2) しかしイエスは、その子を起こされた。

IV. 弟子たちの質問

1. 28 節

「イエスが家に入られると、弟子たちがそっとイエスに尋ねた。『どうしてでしょう。私たちに追いつけなかったのですが』」

(1) 私的空間に入ると、弟子たちは個人的に質問をした。

①自分たちに悪霊の追い出しができなかった理由は、何か。

2. 29 節

「すると、イエスは言われた。『この種のもの、祈りによらなければ、何によっても追いつけるものではありません』」

(1) 「この種のもの」とは、一般的な悪霊の追い出しのことであろう。

①祈りの欠如が問題である。

②つまり、父なる神への信頼が不足しているのである。

3. マタ 17 : 19～20

「そのとき、弟子たちはそっとイエスのもとに来て、言った。『なぜ、私たちに悪霊を追いつけなかったのですか。』イエスは言われた。『あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、「ここからあそこに移れ」と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはあ

りません』

- (1) 必要とされる信仰のサイズは、からし種のサイズでよい。
 - ①それがあれば、イエスの代理人である弟子たちには、できたはずである。
 - ②父なる神への祈りが必要である。

- (2) 「この山」
 - ①山とは、王国を象徴する言葉である。
 - ②ここでは、「この山」とはサタンの王国である。

結論：

1. 父親の信仰告白

「するとイエスは言われた。『できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。』するとすぐに、その子の父は叫んで言った。『信じます。不信仰な私をお助けください』(マコ9:23~24)

- (1) キリスト教信仰の本質が表現されている。
 - ①信じようとする意欲がなければ、救われない。
 - ②神の助けがなければ、信じることはできない。
 - ③ペテロの信仰告白
「するとイエスは、彼に答えて言われた。『バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です』(マタ16:17)
 - ④これは、クリスチャンが抱く、体験に基づく実感でもある。

- (2) 神の予定と人間の自由意志を調和させる方法である。
 - ①両方とも受け入れる必要がある。

2. 死んだようになった子ども

「するとその霊は、叫び声をあげ、その子を激しくひきつけさせて、出て行った。するとその子が死人のようになったので、多くの人々は、『この子は死んでしまった』と言った。しかし、イエスは、彼の手を取って起こされた。するとその子は立ち上がった」(マコ9:26~27)

- (1) マコ5:39~42にあるヤイロの娘の癒しの箇所という言葉使いとよく似ている。
 - ①ヤイロの娘は、死から命に移った。
 - ②その子は、サタンの束縛から解放された。

③それは、いわば死から命に移る体験であった。

(2) 死から命への移行を完成させるためには、メシアの死と復活が必要とされる。

①もはや逆戻りはない。

②死から命への移行が決定的となった。

3. 弟子たちの無力

「イエスが家に入られると、弟子たちがそっとイエスに尋ねた。『どうしてでしょう。私たちに追いつけなかったのですが。』すると、イエスは言われた。『この種のもの、祈りによらなければ、何によっても追いつけるものではありません』」(マコ9:28~29)

(1) 自分に与えられた力を、固定的資質として理解していた。

「また、十二弟子を呼び、ふたりずつ遣わし始め、彼らに汚れた霊を追いつく権威をお与えになった」(マコ6:7)

(2) 過去の経験を頼りとしていた。

「こうして十二人が出て行き、悔い改めを説き広め、悪霊を多く追いつく、大ぜいの病人に油を塗っていやした」(マコ6:12~13)

(3) 祈りによって、父なる神に信頼することをしなかった。

(4) 麓にある問題に取り組む力はどこから生まれて来るのか。

①山頂の祝福を思い出し、大いなる希望を抱く。

②固定化した信仰ではなく、「汝と我」という関係の中にある信仰を保持する。